

## (9) 四国



四国地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

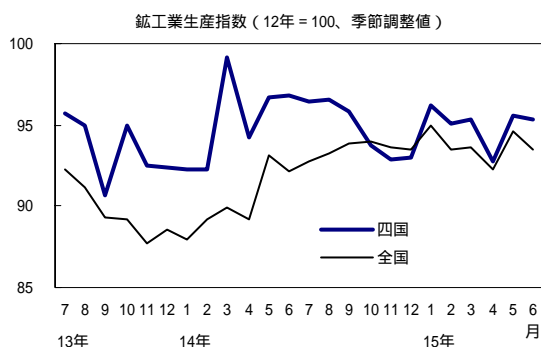
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 5 月）	今回（平成 15 年 8 月）	
住宅建設	減少	このところ増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

パルプ・紙は、印刷用紙や新聞巻取紙が低調であることから、減少している。食料品・たばこは、冷凍麺類が好調を持続しているのに加え、削り節やパンが好調であることから、増加傾向にある。電気機械は、中国、欧米向けの輸出が好調であり、蓄電池、外部記憶装置が増えていることから、増加傾向にある。化学は、医薬品が医療費の個人負担増の影響から減少し、SARSの影響でCD用プラスチック、繊維原料の中国向け輸出が減ったことから、減少している。一般機械は、建設機械が首都圏の排ガス規制対応によって増加しており、また、自動車向けベアリングが好調であることから、増加している。



(備考) 平成 15 年 6 月の四国は速報値。

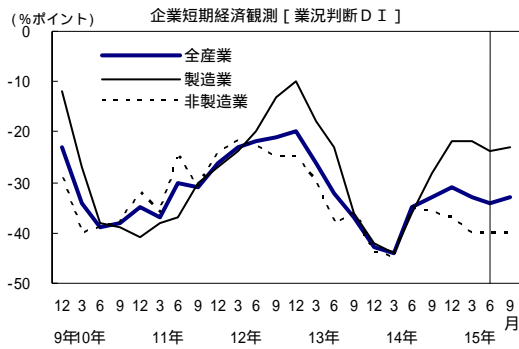
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
パルプ・紙	13.3	0.5	2.1	2.8	1.2
食料品・たばこ	13.3	4.3	2.4	5.9	16.6
電気機械	12.8	1.4	4.8	10.3	40.2
化学	12.7	9.0	11.6	16.3	25.3
一般機械	11.3	3.6	4.0	4.4	2.6
鉱工業	100.0	2.5	1.0	1.6	0.7

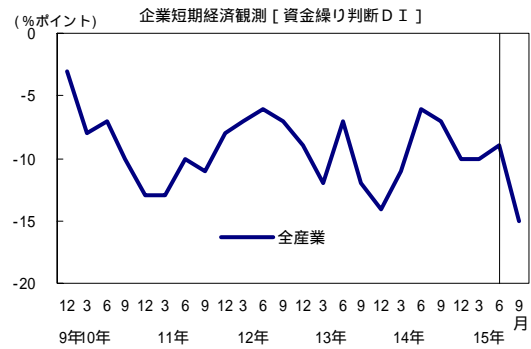
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4~6月期は速報値。

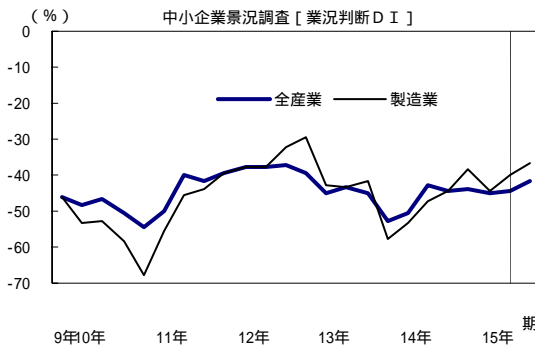
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。  
 企業短期経済観測調査 [ 業況判断D I、資金繰り判断D I ] 及び中小企業景況調査 [ 業況判断D I ]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [ 企業動向関連 (現状判断) ]

「5月、6月は、SARS関連の除菌商品の受注が多かったが、現在は一段落し落ち着いている (パルプ・紙・紙加工品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

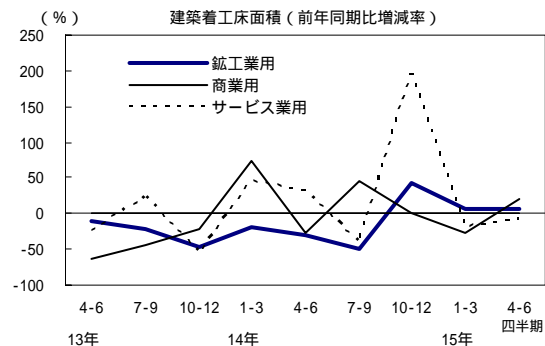
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績とほぼ同水準になっている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (6月調査) ]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績		15年度計画	
全産業	14.9	14.6	0.7	0.4
製造業	22.9	24.6	0.3	0.3
非製造業	8.8	7.0	0.9	0.8

(備考) [ ] は前回 (3月) 調査結果。



## 2. 需要の動向

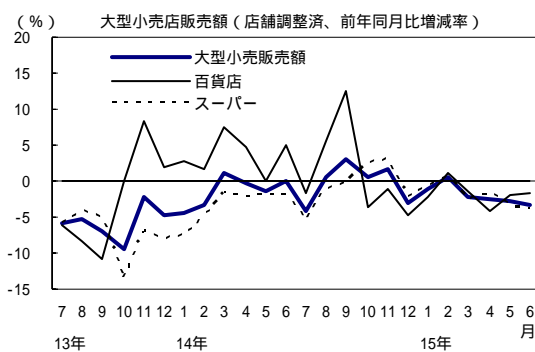
### (1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月は海外ブランドが依然堅調であり、5月は母の日ギフトや大口受注による家具が好調、6月は中元ギフトの早期受注や美術工芸品が好調だったが、全体を通じて、消費者の節約志向や天候不順により主力の衣料品や飲食料品が低調であったことから、4か月連続で前年を下回っている。スーパーは、6月にたばこの増税前の駆け込み需要があったが、天候不順などによって飲食料品が低調であり、また消費者の節約志向や客単価の低下により衣料品も全般に低調であったことから、4か月連続で前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「バーゲン、立ち上がりのみで長続きしない。お中元も早期割引を打ち出した6月は非常に良かったが、7月に入り、割引をやめると急に失速してしまった。客は非常に慎重で、必要な物以外は買わないという購買行動に変化はみられない（百貨店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

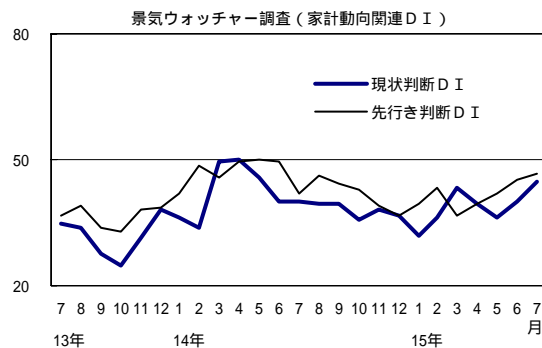
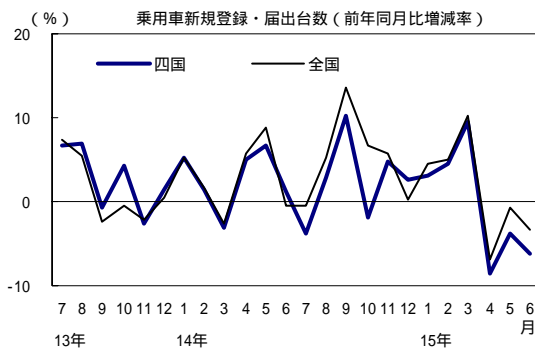


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月
大型小売店	0.5	0.6	1.0	2.9
百貨店	4.3	3.3	1.1	2.6
スーパー	2.4	0.8	0.9	3.0
乗用車	2.9	1.9	6.5	6.2
景気ウォッチャー	39.8	36.9	37.3	38.4

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

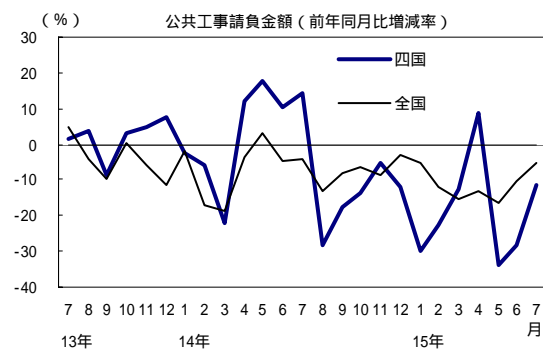
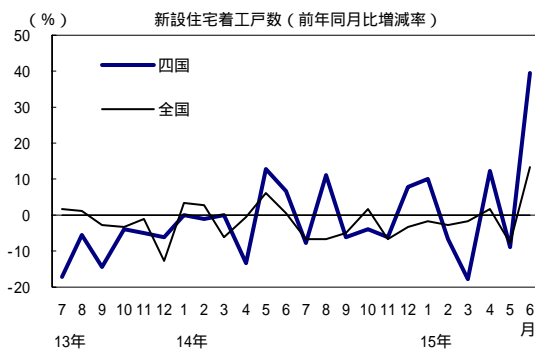
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



### (2) 住宅建設はこのところ増加している。

分譲を中心に前年を上回っており、全体でもこのところ増加している。

### (3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

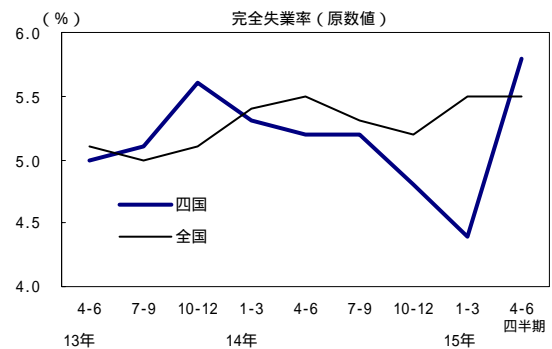
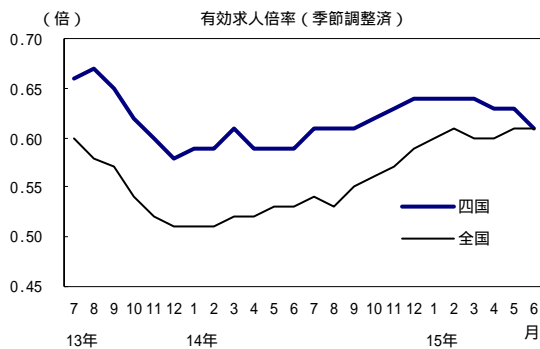


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(7月調査)[雇用関連(現状判断)]

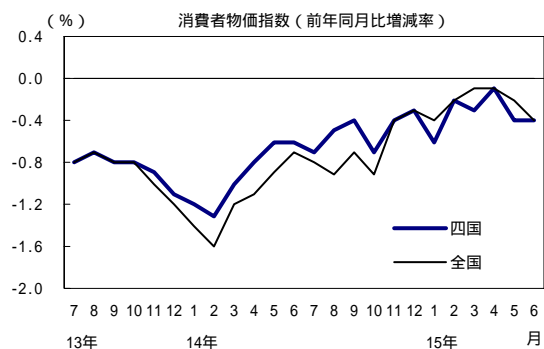
「パートを含む新規求人数が、主要産業のすべてで前年同月を下回っている。また、有効求人倍率は17か月連続で前年比マイナスが続いている(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月	15年7月
倒産件数	144	149	121	149	40
(前年比)	21.0	5.1	28.8	1.4	23.1
負債総額	307	273	350	817	173
(前年比)	40.0	70.2	58.6	116.5	7.2



景気ウォッチャー調査(7月調査)[合計D I(特徴的な判断理由)]

<現状>

・地元大手建設会社2社が民事再生法の申請をしてから、県内景気に対する不安が広がっている(通信業)

<先行き>

・輸入品の増加が続き、その浸透率は70%にもなっている。こうした状況から、景気が良くなるとは思えない(繊維工業)

